

当院における異時多発肺癌切除症例の検討

研究責任者) 国立がん研究センター東病院 呼吸器外科
科長 坪井正博

1992年から2015年まで、国立がん研究センター東病院で、一度肺癌の手術を受けた患者さんの内、期間を置いて二回目の肺がんの手術を受けて病理診断で異時多発肺がんと診断された患者さん101人のカルテのデータを用いて手術後の長期の成績を研究します。

研究の概要：

わが国において、肺がんは画像診断の進歩から早期に発見されることが増えています。早期肺がんの治療は手術が行われますが、手術後に切除された肺がんとは別の肺癌が発見されることがあります。これを異時多発肺がんと呼びます。これら異時多発肺がんに対し、再度手術を行う事が患者さんにとって有用であることは明らかになってはいますが、国立がん研究センター東病院における異時多発肺がんの長期の成績については明らかになっていない点があります。今回の研究では異時多発肺がんに対して手術をうけた方々のデータを用いて、長期的な成績を明らかにすることを目的としています。この結果から手術後の成績が明らかとなり、本研究が今後の手術適応や術後の経過観察方法に大きく貢献すると考えられます。

研究の意義：

異時多発肺がんに対し、再度手術を行う事が患者さんにとって有用であることは明らかになってはいますが、どのような患者さんにとってより予後と関連するのかはまだ不明な点が残っています。

目的：

異時多発肺がんに対して手術をうけた方々のデータを用いて、長期的な成績を明らかにすることを目的としています。

方法：

1992年から2015年まで、国立がん研究センター東病院で、一度肺癌の手術を受けた患者さんの内、期間を置いて二回目の肺がんの手術を受けて病理診断で異時多発肺がんと診断された患者さん101人を対象としております。

対象となった患者さんの診療録から、その臨床的特徴に関する必要な情報を収集します

が、情報収集の作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は、カルテからの情報を元に新規にデータベースを使って管理するため、患者さんの氏名などの個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 市川智博

FAX 04-7131-4724/TEL 04-7133-1111